

山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940年（昭和15年）6月3日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックス・ラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立されました。その後呼称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして1964年（昭和39年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012年（平成24年）4月1日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の3つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力

つきましては、これら3つの事業について、2018年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。
（申請書のExcel / Wordフォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。）

【申請書などの送付先、問合せ先】

一般財団法人 山縣記念財団

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-10-3 正和ビル5F

TEL：03-3552-6310 FAX：03-3552-6311

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

ホームページ：http://www.ymf.or.jp/

1. 『海事交通研究』第67集への掲載論文等募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を1965年（昭和40年）11月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

2018年12月発行予定の第67集につきましても、以下要領にて掲載論文等の募集を致しますので、奮ってご応募下さいますようお願い申し上げます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

・・・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする論文等で以下のいずれかでお願いします。
 - (1) 「指定テーマ」：①海運・造船・港湾と地方創生（「論文」形式でお願いします。）
②海事教育の現場から（「論文」ではなく、活動報告／提言の形式でお願いします。）
 - (2) 「自由テーマ」：執筆者の希望するテーマで、原則として「論文」形式とします。
2. 応募資格者　：どなたでも応募出来ます。
3. 応募原稿　　：未発表のもので、原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。
4. 容量：A4版縦置き横書き（40字×40行）で10ページ（目次・図表・注等を含む）を目安としますが、最大12ページまでを厳守して下さい。
5. 応募・審査手順：
 - (1) 以下につき、ご了承の上、ご投稿をお願いします。
 - ①二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文等の投稿は不可。
 - ②著書や新聞等の文献から引用した場合及び発想を転用した場合は、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月等）を明記する。但し、ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記する。
 - (2) 論文等執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」（以下「申請書」という）を2018年1月5日（金）～2月28日（水）の間に、メール・郵便（2月28日消印まで有効）又はFAXによりお送り下さい。（本誌巻末の「申請書」書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。）
 - (3) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」（以下「編集委員会」という）が提出された申請書を審査し、論文等の執筆を応諾するかどうかを3月末までにご連絡致します。
 - (4) 原稿は2018年7月20日（金）までに、メールに添付して送るか、USBメモリ等記録媒体によりお送り下さい。

6. 提出論文の年報への掲載に際しては、査読（注）を経て、編集委員会での審議にて決定し、9月下旬頃までにお知らせします（論文以外の形式で執筆された作品は査読の対象外です）。発行は、11月下旬～12月中旬の予定です。

（注）査読は、大学または大学に準ずる教育研究機関において教育研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性、課題達成度、具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

7. 原稿料：年報に掲載された論文等については当財団所定の料率にて原稿料をお支払します。
8. 年報掲載論文等執筆申請書・論文等の提出先・問合せ先：本誌p.129をご覧ください。

以 上

2. 「2018年山縣勝見賞」 募集のご案内

当財団は、2008年（平成20年）に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2018年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、前回の「2017年山縣勝見賞」につきましては、本誌p.134に掲載しておりますのでご覧下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文並びに業績
2. 募集開始日　：2018年1月5日（金）
3. 応募締切日　：2018年3月31日（土）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び：①著作賞　海事関係の単著又は共著で、2015年1月1日から対象（30万円）2017年12月31日までの間に発表されたもの。
②論文賞　海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。（20万円）
③功労賞　海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。（20万円）特にその業績の対象期間は問わない。
④特別賞　上記三賞に匹敵する功績が認められる個人又は法人（20万円）並びにその事業
尚、既に他の学会又は団体などから受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。
5. 応募手続　　：応募は、個人・団体の推薦又は自薦によるものとします。
応募者は、当財団宛所定の推薦/申請書（本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のExcelフォームがお入用の方はご連絡下さい。）に推薦/申請理由書並びに当該著書・論文コピーを1部添付の上提出して下さい。（著書は後日返却します。）
推薦/申請書・著書/論文コピー郵送先は、本誌p.129をご覧下さい。
6. 受賞者の発表：受賞者の氏名等は、2018年6月上旬までに当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。
尚、受賞者への贈呈式は2018年7月16日の「海の日」の前後に行います。

以　上

3. 2018年度支援・助成申込のご案内

当財団は、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成活動を行って参りましたが、2018年度につきましても以下の通り募集致しますので、ご応募下さい。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、2017年度の支援・助成先につきましては、本誌p.137に掲載しております。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成
2. 募集開始日 : 2018年1月5日(金)
3. 応募締切日 : 2018年2月28日(水)(当日の消印有効)
4. 申請条件 :
 - (1) 2018年4月から2019年3月までに実施する事業であること
 - (2) 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
 - (3) 既に実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
 - (4) 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を速やかに行うこと
5. 申請手続 : 応募者は、当財団宛所定の申請書(本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。又はこれに代え、募金趣意書などを提出して下さい。)申請書提出先は、本誌p.129をご覧ください。
6. 審査結果の発表 : 助成審査委員会(2018年3月上旬開催予定)により審査し、理事会(2018年3月下旬開催予定)に答申。結果は、4月上旬までに申請者宛連絡します。

以上

「2017年山縣勝見賞」の結果報告

「2017年山縣勝見賞」の受賞者を次の通り決定し、2017年7月20日、海運クラブ（東京・平河町）にて贈呈式が行われました。受賞者、及び受賞内容につきましては以下の通りです。（受賞者略歴は受賞時点のものです。）

記

・著作賞

木原知己著『船舶金融論—船舶に関する金融・経営・法の体系—』

（海文堂出版2016年5月刊）

受賞者略歴：

1984年九州大学法学部法律学科卒業後、日本長期信用銀行（現新生銀行）入行。主として船舶融資を担当し、営業第八部長、高松支店長を最後に同行退職。2005年に都内金融機関に入行し、船舶金融チームを立ち上げる。2011年、青山総合会計事務所顧問に就任。その後、パートナーを経て現在は同事務所海事スーパーバイザー。船主向け経営コンサルティングの傍ら、ファイナンスアレンジなどに従事する。現在、早稲田大学大学院法学研究科非常勤講師（船舶金融法研究）、センチパートナーズ（株）代表取締役、海事振興連盟三号会員などを務める。

受賞理由

船舶の建造あるいは購入にかかる必要資金を供給する「船舶金融」に関連する事項について、金融機関や会計事務所、並びに早稲田大学大学院法学研究科非常勤講師（「船舶金融法」講座担当）等の経験を通して会得した知見をもとに、1）金融論、2）船主経営論、3）法との接点といった論点も踏まえ、金融サイド・船主サイド両面から、網羅的、体系的、客観的、多面的、実用的に解説した本書は、「船舶金融分野におけるバイブル」ともいえる。

・論文賞

西崎ちひろ著「見張り作業における操船者の状況認識と見張り支援に関する研究」

（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻 博士学位論文 2016年3月工学 課程博士）

受賞者略歴

東京海洋大学海洋工学部商船システム工学課程航海学コース卒業（卒業論文「レーダ画像処理による船舶映像の抽出に関する研究」、卒業時に海洋会賞を受賞）。同大学大学院（海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻）修士課程（修士論文「レーダ画像処理による船舶の捕捉追尾に関する研究」）、独立行政法人海上技術安全研究所（現在の国立研究開発法人海上・港湾・航空研究所）勤務を経て、2016年3月今回受賞の論文により東京海洋大学博士（工学）を取得。又、日本航海学会英文論文誌“Transactions of Navigation

Vol.1, No.1” (2016年3月) 掲載の論文 ‘Quantifying the Severity of Marine Collision Accidents Caused by Human Factors’ により、竹本孝弘氏とともに2015年度日本航海学会論文賞を受賞。2016年東京海洋大学助教就任。

受賞理由

海難の中で最も多く発生している衝突海難の原因の8割を占める「ヒューマンエラー」について理解し、それらを抑制するために、これらヒューマンエラーの背後にある様々な要因も含めた対策として、操船者の行動分析、SAGAT (Situation Awareness Global Assessment Technique) を用いた状況認識の計測・分析、人間信頼性解析手法CREAM (Cognitive Reliability Error Analysis Method) を用いた操船者エラーの背後要因整理などによって、対策を提案した手法は評価できる。

・論文賞

若土正史著「大航海時代におけるポルトガル「インド航路」の海上保険の活用について」
(神戸大学大学院経済学研究科経済学専攻 博士学位論文 2016年3月 経済学 課程博士)

受賞者略歴

1973年 関西学院大学商学部卒業後、東京海上火災保険(株)入社。本社各部や支店営業に従事。この間、関西学院大学大学院商学研究科MBA取得。東京海上日動あんしん生命(株)LP営業部長等を経て退職後、神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程ののち後期課程(専攻:中近世日本経済史)に進み、2013年3月から1年間ポルトガルを中心に海上保険史を調査研究のためポルトガル・コインブラ大学に visiting scholarとして留学。その後も度々渡航して、ポルトガル及びスペインの古文書館に眠る保険史料を解読。2016年3月今回受賞の論文にて、神戸大学博士号(経済学)を取得。2016年12月より同大学海事科学部非常勤講師(海上保険論)。

受賞理由

本研究は、今日の様々な保険の源流ともいべき「海上保険」の生成史について論究したもの。具体的な取引事例を大航海時代のポルトガルとしたのは、わが国の戦国時代から江戸時代にかけて、ヨーロッパ人との取引取引の中で、海上保険の原型である「海上貸借」(通称「投銀」(なげがね))という制度が活用されており、当時のポルトガルの海上保険制度との関連に興味を沸かしたため。ポルトガル・インド航路の関連史料は、リスボン大震災(1755年)の影響でほとんど消失しているため、ポルトガルの隣国スペインのブルゴス市の古文書館で発見された15件の海上保険契約取引史料から当時の取引実態を解明したが、これまで同史料を使った同テーマに関する先行研究は見当たらず、画期的な研究と言える。これにより、インド航路と日本航路における海上保険分野での連続性について証明されたのを契機に、日本の海上保険史研究の新たな重要研究課題となることを期待する。

・ 功労賞

國領英雄氏

受賞者略歴：

1933年生まれ。京都大学経済学部卒業。同大学文学部史学科卒業後、(社)日本海運集会所に入所し、仲裁業務に従事。1975年同所を退職して、神戸商船大学商船学部助教授に就任。その後同大学教授を経て、大阪学院大学流通科学部教授に就任。この間、日本海運経済学会副会長、日本港湾経済学会常任理事などわが国学会の要職に就く。又、(財)関西交通経済研究センターの調査研究委員会および近畿運輸局設置の検討会等の委員長や座長を務め、1990年には第50回海の記念日・近畿運輸局長表彰を受ける。現在、神戸商船大学名誉教授、大阪学院大学名誉教授。

受賞理由

京都大学経済学部で佐波宣平教授の指導を受け、更に同大学文学部において西洋中世史を専攻。若き日の(社)日本海運集会所での仲裁業務の経験を出発点として、氏の研究領域は海運から物流、港湾、航空等多岐に亘っている。海運だけをとりあげても、企業財務、金融、景気変動、密度の経済学、ネットワーク、法の経済学、市場、労働、バルク、クルーズ、フェリー、外国海運政策、内航海運等、広い範囲にわたる研究成果が残されている。

常に新鮮な目で海運の今日的課題に向き合って研究を重ね、学会の発展と有為な人材の育成に尽力してきた氏の長年の努力と情熱に敬意を表するものである。

・ 特別賞

該当者なし

以 上



「2017年山縣勝見賞」贈呈式における受賞者記念撮影 2017年7月20日
於海運クラブ
左から國領英雄氏(功労賞)、若土正史氏(論文賞)、西崎ちひろ氏(論文賞)、木原知己氏(著作賞)

「2017年度支援・助成先」の報告

2017年度当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を公表致します。
尚、諸般の事情から金額の公表は差し控えます。ご了承のほどお願いします。(敬称略)

・公益社団法人日本海洋少年団連盟

「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導者の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して2010年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

「我ら海の子展」事業

1973年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016年度からは中学生も対象に加わり、2017年度は全国の子供達からの応募5,026点の内から、国土交通大臣賞2作品（中学生の部、小学生以下の部）はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞並びに東日本大震災を機に創設された「がんばろう日本賞」の合計130作品に各賞が贈られました。尚、当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。

カヌー整備事業

2020年までに海洋少年団会員を1万人とする計画の一環として、インフラ整備を支援します。

ゴムボート・救命胴衣整備事業

同上

・東京海洋大学海事普及会

(海事普及のための学校等) 巡回活動事業

海事・海洋リテラシーの向上を目的とした、学生による各地の学校の巡回・講演活動。2017年度は、広島県、和歌山県の小中学生を対象に講演を実施。

・NPO法人故郷の海を愛する会

海から始まる物語 IN 2017

主に三重県内に在住する小中学生に対して、故郷の海を愛する心を育て、素晴らしい日本と日本の海を認識し『希望と憧れ』の気持ちを醸成させるために、体験航海、港や造船所、火力発電所、海の博物館などの見学会、講演会などを実施。

- ・ **国際海運経済学会（IAME）2017年京都大会開催実行委員会**
国際海運経済学会（IAME）2017年京都大会
海運・港湾・物流関係の研究者が集まる世界最大の学会であるIAMEの大会が2017年6月初めて日本（京都）で開催されるに際し、一部費用を支援した。
- ・ **藤本 昌志**（神戸大学大学院海事科学研究科准教授）
超大型コンテナ船の航海灯の配置による問題に関する研究
- ・ **嶋田 陽一**（水産大学校）
夜光衛星画像を用いた対馬海峡における漁船の動向及び商船の安全な航路選択
- ・ **梅田 綾子**（東京海洋大学大学院 博士後期課程）
Autonomous Ship Techonology Symposium 2017での講演
- ・ **水野 英雄**（椋山女学園大学 現代マネジメント学部 准教授）
外航クルーズ客船の寄港状況調査
- ・ **若土 正史**（神戸大学海事科学部博士後期課程修了、同学部講師）
スペイン・ブルゴス古文書館及びヴァリャドリッド高等裁判所古文書館収蔵の海上保険の保険金支払い訴訟に関する手稿史料の翻訳

以 上

【トピックス】

高田富夫氏（当財団理事）執筆『ロジスティクス管理の方法』が
日本海運経済学会賞（著書の部）及び住田物流奨励賞を受賞しました

高田富夫流通経済大学流通情報学部教授（当財団理事）の著書『ロジスティクス管理の方法』（2017年3月、当財団発行）が、第26回（2017年）日本海運経済学会賞（著書の部）及び（公財）交通研究協会が実施し、日本貨物鉄道（株）が運営する「第10回住田物流奨励賞」を受賞しました。

本書の内容（目次）及び著者高田富夫氏の略歴については、以下をご覧ください。

本書目次

はしがき

第1章 ロジスティクスの源流と発展

はじめに

- I ロジスティクスの源流域
- II 戦争とロジスティクス
- III ビジネス・ロジスティクスの成立と発展
- IV ソーシャル・ロジスティクスの成立と発展

本章のまとめ

第2章 ロジスティクスとSCM

はじめに

- I ジャスト・イン・タイムと部材必要量計画
- II 経営管理概念とITツール：発展の系譜
- III SCMとプロセス参照モデル
- IV SCMのイネーブラ
- V SCMの課題

本章のまとめ

第3章 物品の属性とロジスティクス系

はじめに

- I 物品のロジスティクス特性
- II ABC分類とパレートの法則
- III ロジスティクス費用の構造
- IV 物品の属性とロジスティクス費用

本章のまとめ

第4章 顧客満足とロジスティクス・サービス

はじめに

- I ロジスティクス・サービスの効果
- II 顧客満足とロジスティクス

Ⅲ サービス水準の最適化

Ⅳ ロジスティクス系崩壊への対応

本章のまとめ

第5章 在庫管理の理論

はじめに

Ⅰ ロジスティクスにおける在庫の形態と機能

Ⅱ 顧客満足と在庫補充

Ⅲ 確実性条件下の在庫管理モデル

Ⅳ 不確実性条件下の在庫管理

Ⅴ 在庫一括管理

本章のまとめ

第6章 輸送管理の方法

はじめに

Ⅰ 輸送手段の最適化

Ⅱ 輸送経路の最適化：基本型

Ⅲ 輸送管理の最適化：発展型

本章のまとめ

第7章 立地決定の方法

はじめに

Ⅰ 一般的な立地決定要因

Ⅱ 立地理論の史的系譜

Ⅲ 単独施設の立地モデル

Ⅳ 複数施設の立地モデル

本章のまとめ

第8章 需要予測の方法と課題

はじめに

Ⅰ 各種の予測手法

Ⅱ 指数平滑法

Ⅲ 時系列分析法

Ⅳ 産業連関モデルによる予測

Ⅴ 需要予測の課題と対応

本章のまとめ

あとがき

著者 高田富夫氏の略歴

1971年 早稲田大学第一商学部卒業

1973年 早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了

1976年 早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学

1976年 山縣記念財団専任研究員

1978年 名古屋学院大学経済学部専任講師
1997年 早稲田大学博士（商学）
2000年 流通経済大学流通情報学部教授

主な著書

『交通経済学』（翻訳書）晃洋書房、1984年
『商学総論』（共著）晃洋書房、1991年
『海運産業の成長分析』（共著）晃洋書房、1996年

※本書に関するお問合せ、入手申込みの方は、下記までe-mail又はお電話にてご連絡下さい。

一般財団法人 山縣記念財団

TEL: 03-3552-6310

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

2018年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2018年第67集に寄稿したく、申請致します。

記

1. 執筆者氏名
2. 所属
3. 連絡先

住所：〒 -

TEL: () - FAX: () -

E-mail: @

4. 執筆希望論題（いずれかに○をつけて下さい。）

(1)指定テーマ：

- ①海運・造船・港湾と地方創生
- ②海事教育の現場から

(2)自由テーマ：

5. 執筆の趣旨・概要（300字～500字程度）

以 上

山縣勝見賞推薦／申請書

(推薦／申請年月日) 2018年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

賞の種類	①著作賞 ②論文賞 ③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。)			
受賞対象内容	a. 著作(書籍) 又は論文名			
	b. 掲載誌・号数 (論文の場合)			
	c. 発行者		d. 発行／発表年月 年 月	
	(フリガナ)		f-1 勤務先(役職)又は職業その他	
	e-1 氏名 (著作・論文の場合、著者)			
	(フリガナ)		f-2 勤務先(役職)又は職業その他	
	e-2 氏名 (著作で、共著者がいる場合)			
	(フリガナ)		f-3 勤務先(役職)又は職業その他	
e-3 氏名 (著作で、共著者がいる場合)				
推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)			

記載箇所：①はb以外全て、②は全て、③はe,fのみ、④はe,fに加え対象としたい事項をaに記載して下さい。

添付物：1. 推薦／申請理由書

2. 推薦／申請著作(書籍)*／論文、他参考資料

※書籍は、本賞の選考後、原則としてご返却いたしますが、当方で書籍に書き込みなどをした場合は、購入させて頂くか、ご寄贈をお願いしたいと思います。ご寄贈が可能な場合は、右の□にチェックを入れて下さい。→→□

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦／申請します。

(※推薦／申請(＝自薦)のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 () -

メールアドレス @

勤務先(役職)又は職業

キ
リ
ト
リ

2018年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

補助金助成申請書

下記の通り、海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成を申請致します。

記

1. 補助金助成を申請する事業名
2. 補助金の申請額 円
3. 補助金の必要時期 (当財団よりの振込希望時期) : 年 月
4. 事業の目的・申請理由 (出来るだけ詳細に記述して下さい。)

5. 本事業（総額）に係わる収支案

（※収入（総収入）として、本補助金申請額及び他の調達方法、支出（総費用）として、
具体的使途・金額を記入して下さい。）

収入予定			支出予定		
年月	内容	金額(万円)	年月	内容	金額(万円)
	本補助金				
合 計			合 計		

6. 以下の「申請条件」全てについて了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合は☑を入れて下さい。）

- 2018年4月から2019年3月までに実施する事業であること
- 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
- 既の実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
- 振込は貴請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行うこと
- 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を、遅くとも2019年4月末までに行うこと
- 補助金を使い切らなかった場合は、ご申請以外の使途に流用することなく、当財団に差額を返金すること
- 本活動の成果について对外発表する場合は、当財団補助金による活動である旨の記載/言及を行うこと
- （申請者の所属する大学等が会計処理を担当する場合のみ）一般管理費等に充当することなく、申請者の研究等事業に全額充当すること

7. その他参考事項

（申請者事業概要についてホームページで公表している場合は、URLをご記入下さい。）

8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mailなど

以 上